



日研究生E-だより 第7号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2012年11月9日

修了生のみなさん、お元気でしょうか。『日研究生 E-だより』第 7 号をお届けします。この 8 月 10 日に 2011 年度の日研究生は無事に修了式を終えました。そして 9 月に新しい日研究生 13 名を迎えました。

2012 年度日研究生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
ロシア	2名
スロベニア	1名
オランダ	1名
ポーランド	1名
ベトナム	2名
イタリア	1名
キルギス	1名
ラトビア	1名
アゼルバイジャン	1名
タジキスタン	1名
メキシコ	1名
計	13名



2011 年度日研究生修了式



2012 年度日研究生オリエンテーション

■ 2011年度担任の一二三先生と副担任の長田先生からメッセージをいただきました

一二三先生

日研究生の皆さん、お元気ですか。1年間の研修も終わり、今頃はそれぞれの国に戻り、これからの進路を模索しながら忙しい毎日を送っていることでしょう。1年前、皆さんと初めてお会いした時の印象は、とても積極的で明るく素直ということ。希望に輝いてまぶしいくらいでした。

1年間の日本での生活で、母国とは異なる環境や、慣れない文化慣習に戸惑ったり驚いたりしたこともたくさんあると思います。でも、好奇心旺盛な皆さんは、そうした驚きや発見を楽しんでくれたと思います。また、いろいろな授業や研修旅行、そして最大の山場である修了論文作成など、とても盛りだくさんで、ときには挫折しそうになるくらい苦しいこともあったのではないのでしょうか。そうした課題を1つ1つ、指導教員やチューターの助けを借りながら乗り越えていく姿は、担任としてとても嬉しく、また頼もしく感じたものです。論文の完成度はいろいろですが、それでも短期間の間に「研究」ということへの理解が深まったのではないのでしょうか。それが今後の皆さんの研究や仕事に活かしてもらえれば幸いです。それにしても短期間に皆、本当によく頑張りましたね。

また、日研究生として来日されましたが、日本人だけでなく様々な国の人と出会えたこともきっと将来、皆さんの財産となると思います。ここでの出会いをこれからも大切にして、国際社会で活躍する人になって下さることを願っています。そして、さらにまぶしく輝いていってください。

長田先生

日研生の皆さん。お元気ですごしていらっしゃるでしょうか。副担任の長田です。皆さんとは、日研生の研修旅行や、修了パーティーなどで楽しくお話をさせていただいたことが思い出に残っています。日本に対する(あらゆる面での)熱心な勉強の姿が強く印象に残ります。日本での成果を糧に、母国でもきつと大活躍のことでしょう。さて、本年度も新しい日研究生が9月に到着しています。ロシア、スロベニア、オランダ、ポーランド、ベトナム、イタリア、キルギス、ラトビア、アゼルバイジャン、タジキスタン、メキシコと世界中からやってきました。私は、その日研究生たちの担任です。今回の皆さんの後輩たちも極めて熱心で、日本に熱い気持ちをもって来ています。ぜひ後輩たちも応援してください。機会があれば日本で(日本以外でもよいですが)みなさんとお会いできることを楽しみにしています。お体に気をつけて、頑張ってください。

■2011年度日研究生に聞きました！

今年8月に修了した日研究生10名に次の質問をしたところ、7名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. 日本で一年間日研究生として過ごした感想、心に残る思い出などについて教えてください。
2. 帰国後の現在の様子を教えてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

張 雪梅 さん (中国)

1. この一年間で世界各国の方々と友達ができることは本当に楽しく思います。帰っても時々メールで連絡を取りますので、よかった！筑波大学に来た前に、協同学習の体験は少ないですが、この一年間で授業を通じて日本人の学生と日研究生と一緒に日本の文学や文化などについていろいろ資料調べて、協力して、発表するのは非常におもしろくて、いろいろと勉強になりました。

この一年間、大阪や東京や箱根などに旅行して、異文化とふれあって、非常にいい思い出が作りました。日本は本当に美しい国で、日本のおばあさんやおじいさんたちが本当に心優しくいい人間だと思います。旅行のとき、彼らはいろいろ助けてくれて、本当に感謝します。

この一年間筑波大学で勉強できることを本当に感謝します。筑波大学はもっと中国の大学と交流して、日中両国の若い青年たちの相互交流と相互学習がさらに高い次元で展開されることを祈念いたします。

2. 今は大学四年生で、大学院の試験に頑張っています。毎日忙しいです。また、『和漢朗詠集』から見る藤原公任の文学理念——梅花の漢詩文を中心に——という論文を書いています。本当に日本で勉強したことをここで生かしています。再び感謝の意を申し上げます。

レ・ティ・ゴック・ラン さん (ベトナム)

1. 日本に来て、いろいろな人に出会えたことは本当にありがたいと思います。日本の社会生活からいろいろなことが勉強できました。他人への思いやりや、「ありがとう」という言葉の意味を改めて考えさせられました。これから先、日本でできた経験と共に日本語の勉強を続けて、周りの人に役に立てるようになりたいと思います。私にとって日本での一年間は一生に忘れられない素晴らしい体験だと思っています。筑波大学では日本人の友達だけでなく、様々な国からの留学生の友達も出来て本当に良かったです。また、論文については美人の先生および熱心なチューターの指導を受けて心から感謝しています。さらに、名古屋のホストファミリーが私を本当の娘のように優しくしてくれてありがとうございました。

今は10月ですが、日本はもう秋になりました。日本の秋が本当に恋しいです。今でも筑波大学キャンパスにあるそれぞれのいちょうの木を覚えています。そして、ベトナムにいても毎日、夕方になると夕方によく座って





いた噴水に近い芝生も恋しいです。筑波大学を心から愛しているので、絶対にいつかまた行きます。

「筑波大学、また会える日までちょっと待ってね。」

2. 今週の月曜日から、大学の生活に戻りました。後輩のみなさんに会って、いろいろなことを聞かれました。実は、どう答えればいいのかわかりませんが、せめて、後輩のみなさんの心に「日本に行きたい」という意志が強がるようにしたいと思います。

■ **ブライ・フリバル・ペトラ さん (スロベニア)**

1. 1年間は長いですが、一瞬間で終わった気がします。たくさん友達をつくったり、旅行したり、新しいことを経験したり、自分の心の中で新しい感じを見つけたりなどが全部素晴らしかったです。全ては私の心の中に残っています。筑波大学の先生方々、先輩方々、後輩達、友達、日本文部科学省の関係者の皆様に心から感謝いたします。
2. 今はリュブリャナ市にいます。11月の終わりに卒業します。最近卒業論文、日本文化に関するイベントをオルガナイズして、入学試験の準備などが忙しいです。来年はまた筑波大学に行く予定です。

■ **オオタ・アユミ さん (ブラジル)**

1. 筑波大学では、単に日本語の勉強だけでなく、私たち日研生のための特別授業や学類の科目も受講できて、いろいろな側面で大学生活を経験できたと思います。そして論文などを書く事で、日本における研究がどのようなものなのか実感でとても良かったと思います。大学での経験はもちろん、社会見学や多く日本の方がたとの交流や諸国の留学生とのふれあいも私にとっては掛け替えのない思い出となりました。
2. 帰国後は、こちらの大学に戻り、来年末に卒業見込みです。ブラジルでは、大学生でも昼間はアルバイトや就職している学生が多いため、大学では夜間制度があります。私も夜間大学に通っていて、昼間はアルバイトとして、サンパウロ日本領事館で「留学生アドバイザー」と言う仕事をしています。日本での生活や経験が大変役立っていると思います。今後も、日本での生活や筑波大学での留学経験を活かし、日本とブラジルの掛け橋としての活動ができるよう頑張りたいと思います。

皆さん、一年間大変お世話になりました。どうもありがとうございました！

■ **イブラギモヴァ・アジザ さん (ウズベキスタン)**

1. 日本で日研生として過ごした一年間は非常に面白かったです。来日してから帰国したまでの期間にかけて担当の指導教員達、指導チューターが日常生活や勉強などで親切に支援してくれました。最初に日本に順応する事は少し難しかったのでした。例えば、周りがあまり詳しくなくて困ったり、耳が慣れていなかったので早口日本人の言葉が分かり難くなりました。しかし、様々な実習ができて良かったです。一番目に、日本語能力が進行了ました。二番目に、異文化に触れて、色んな友達ができました。また、内の大学で教えて頂いた先生達と会うことができました。一番記憶に残ったのは、国際経済の講義でした。日本の教育システムを色々な側面から学ばれました。また、印象的だったのは大学内の生活でした。内の大学では学生達が一般的に勉強のみしているが、日本では大学の大体各イベント(サークル、会議、見学、花見、花火、山登り等)に良く参加しています。
2. 一言で言えば、日本で永遠忘れない経験を得ました。このことを持って、最初にこのプログラムを支援した日本文部科学省、次に筑波大学のスタッフを有り難いと思います。現在、内の大学で4年生です。経済を専門に扱っていながら日本語を含めて外国語の勉強も続けています。未来また日本を訪ねるように願います。



■ エスラ・デミルタシュ さん (トルコ)

1. 日研究生として日本で過ごせたのは、しかもつくばで過ごせたのは、とても特別な感じがします。様々な国の人に出会えて、異文化に触れることができました。人とのコミュニケーションがスムーズに行うには、相手が口に出している言葉だけではなく、その裏にある気持ちも上手くつかむ必要があることなどが分かりました。

勉強の面では、日研究生のプログラムは、普通の日本語・日本文化に関する授業もあれば、見学の授業もあり、そして修了論文もあって、非常に整っているプログラムだったのではないかと思います。この意味でも、日常の生活の上での勉強でも、色々な経験ができたので、とても有意義だったと思っています。

2. 現在、大学の日本語教育学部の4年生で、教育実習や論文などでバタバタしております。日本人の先生も何人かいますので、生の日本語に触れるチャンスがありますが、日本にいる間ほどではないです。なので、日常でも友だちと時々、日本語で喋ったりもします。そして、趣味であるラテンダンスを続けております。

帰国後に日本を振り返って思うことは、卒業してから、日本の大学で大学院に行きたいということです。

■ ヴー・ティ・ビク・ホン さん (ベトナム)

1. 私たちベトナム人は年代によって、日本人に対してのそれぞれの見方を持っている。ベトナム戦争の体験したお爺さん・お婆さんは日本人を嫌う気持ちがある人が少なくないだろう。しかし、戦後の急速に発達した日本の勤労意欲や強い集団意識がある日本人への憧れや尊敬の気持ちを抱いているベトナム人、特に若者が明らかに多くなってきた。日本の進んだ技術を学びたい。日本の豊富な歴史・文化を体験し、深く研究したい。日越友好関係を引き続けたいと頑張っている。

物価の高い日本への留学は日本語学者の私の憧れであり、夢だ。日本の政府の支援のおかげで、ドラマによく見られる日本をこの目で確かめられ、整備された環境の中で勉強し、生活する夢が現実になった。心から感謝を申し上げたいと思う。

筑波大で一年間日研究生として過ごしたのは私の1人暮らしの初経験だ。初めてだが、怖いとぜんぜん感じなかった。最初の数日間、寮、外国人登録書、銀行口座、携帯電話などの漢字ばかりの申し込みを見ると本当にショックした。先生やチューターさんの熱心な手伝いがもらえなかったら、全部簡単に早くできなかったと思う。来日前頭にある厳しくて、冷たい日本人のイメージはまったく消えてしまった。「よかったな！」とホッとした。

そして、筑波大の色々な異文化のふれあい環境で成長して、自分の欠点分かり、世界の色々な国から来た友達の美点を受け入れられた。来日したのは9月5日で、最初の1週間はキャンパスに学生の姿が少なく、静かすぎてびっくりした。しかし、新学期が始めてから、どこでもいつでも人の姿が見られた。勉強のため研究室や図書館に夜遅くまでいる先輩たち、友達は少なくない。勤勉だけれど、ほとんど誰でもサークルの活動に参加したり、バイトをしたりする。どこに行っても手帳を持って効果的に時間を管理でき、さすが筑波大の学生だと思う。また、私は shy で、他人との話しかけるのは上手ではなく、人の前で発表のも自信がなくてよくできなかった。留学生センターの授業や日々の授業を通して日本語・日本文化を教えてもらい、人とのコミュニケーションも身に着けてきた。話せば話すほど楽しい。放課後一緒に飲み会したり、サークルに参加したり喋ったりするから、ホームシックがそんなに酷くなかった。

また、旅行や美術館が大好きな私は、1年間で、貯金して、関東、中部、関西、四国へ旅行した。日研究生の授業で埼玉



県の川越市と千葉県成田市の成田市に研修に行ってきた。ただ本を読んで日本の歴史を勉強することではなく、美術館に研究して、自分の目で昔の村を見て、日本の伝統的な仕事を体験して、日本の昔の雰囲気の中に沈めた。非常に勉強になった。筑波大の身分証明書で東京の上野周辺の国家の美術館に無料に入れるから、本当に有難い。

そのうえ、旅行する時、秋に紅葉、春に桜、夏に祭り、色々素晴らしい景色を眺め、行事に体験、名産を楽しみながら、日本人の社会

人、日本人の普通の生活も何とか分かるようになってきた。実は将来の就職について色々考えていた。日本での仕事の圧力に慣れてない人はやはりストレスが多いが、少し慣れたら、だんだん好きになるはずだと私は信じている。

2. 帰国して、すぐハノイ貿易大学に通い続ける。最初の数日はまだ慣れてないからよく左側を歩いた。ベトナムでは右側を歩くんだった。時々ベトナム語が思い出せなく、日本語の言葉を発言してしまった。すごく恥ずかしかった。大学で日本語クラブに参加して、日本で勉強になったことや、日本への愛情をクラブの皆さんに伝えたいから日本人の先生とクラブのメンバーと一緒に毎月日本の文化の交流会を行う予定だ。まだshyだが、前より自信を持って、ハノイ貿易大学での日本の大学との交流会に活発参加した。さらに、2013年に日本ベトナム外交関係樹立40周年記念に向けクラブもイベントを計画中だ。今の時期は秋だね。私の一番好きな季節だ。このごろ日本はだんだん寒くなってきただろう。ベトナムはまだ28度くらい暑い。道を歩くと、風が吹いてくると、舞い降りて落ちる黄色の葉っぱを見て、一の矢宿舎の近くのグラウンドにある銀杏の美しさが頭に浮かんでいた。そして、日本文明・文化という授業を受けている。日本で過ごしたことを振り返って、もっとわかるようになってきた。もう一度その雰囲気に住るため、これからも勉強をはじめ色々なことを頑張る前を向いて進む！

「日研生E-だより」も7号になりました。皆さんからのおたよりをお待ちしております。



2011年度 日本語・日本文化実験実習

筑波大学 日本語・日本文化学類

URL <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



kimura.mayumi.gf@un.tsukuba.ac.jp

aoyagi.makiko.ft@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。